

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立白沢小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年 国語 37人 算数 37人 理科 37人

第5学年 国語 35人 算数 35人 理科 35人

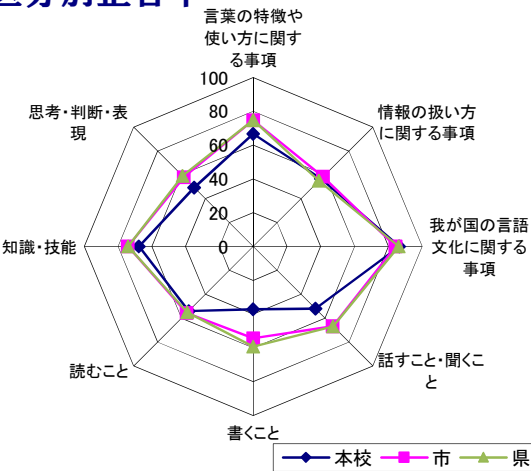
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立白沢小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	66.7	74.7	74.8
	情報の扱い方にに関する事項	56.8	58.4	55.0
	我が国の言語文化にに関する事項	86.5	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	52.0	66.7	66.9
	書くこと	37.2	54.3	59.3
	読むこと	54.1	55.6	55.2
観点	知識・技能	67.6	74.1	74.0
	思考・判断・表現	49.3	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

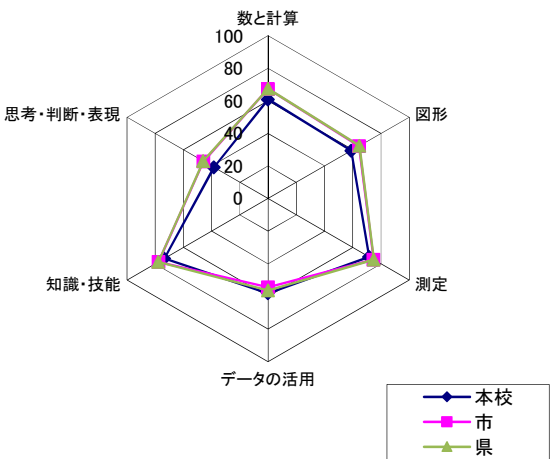
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	領域の平均正答率は66.7%で、市平均より8.0ポイント低い。 ○指示語に関する設問は市平均とほとんど変わらない。 ●第三学年の配当漢字の読み書きについては、6問中5問で市の平均を下回っている。特に書きの問題は3問中2問が市の平均を10ポイント以上下回っている。	・国語辞典や漢字辞典の活用を通して、漢字や語句、熟語などの理解を深めていく。 ・日常的に既習の漢字を正しく使えるよう、ノート指導をしていく。 ・家庭学習で漢字を効果的に復習できるようにしたり、朝の学習を充実させたりする。
情報の扱い方にに関する事項	領域の平均正答率は56.8%で、市平均より1.6ポイント低い。 ●国語辞典の使い方にに関する設問は、市平均より1.6ポイント下回っている。	・こまめに国語辞典を使いながら、語彙力を豊かにしていく。 ・物語文の単元では意味がわからなかった単語について国語辞典で調べるようにし、国語辞典を身近な物にできるようにする。 ・同音異義語についても、国語辞典を使って調べることにより妥当な意味を推測できるようにする。
我が国の言語文化にに関する事項	領域の平均正答率86.5%で、市平均より2.2ポイント高い。 ○漢字のへんやつくりに関する設問は、2.2ポイント上回っている。	・漢字辞典を使うことを推奨しながら、新出漢字学習の際に更に、へんやつくりに関心をもって学習できるようにする。
話すこと・聞くこと	領域の平均正答率は52.0%で、市平均より14.7ポイント低い。 ●相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながらまとめる設問では、市平均を28.3ポイント下回っている。	・授業中に子どもたち同士の学び合いの場を積極的に取り入れることで、自分の意見を相手にわかりやすく伝えられるようにしていく。 ・自分の意見に理由付けをして、相手に伝えられるようにしたり、相手の意見を聞いて自分の意見と比べながら聞いたりして、授業内に意見と意見をつなぐようにする。
書くこと	領域の平均正答率は37.2%で、市平均より17.1ポイント低い。 ●指定された長さで文章を書く設問では、市平均を26.8ポイント下回っている。	・意見や感想等の自分の考え詳細に書く活動を通して、決められた長さで、文章を書く指導を充実させていく。 ・国語だけでなく、他教科とも関連させ、書く機会を増やし、書く力を向上させていく。
読むこと	領域の平均正答率は54.1%で、市平均より1.5ポイント低い。 ○登場人物の気持ちについて叙述を基に捉える設問では、市平均より6.8ポイント上回っている。 ●叙述を基に文と文のつながりを捉える設問では、市平均より10.5ポイント下回っている。	・読書の機会を増やし、想像力を働かせながら読み進める楽しさを実感させるようにする。 ・説明文の学習では、接続語に着目しながら意味のつながりを読み取れるようにしたり、文のねじれに注意しながら文章を書けるように指導していく。 ・説明文の学習では、文と文のつながりや段落と段落とのつながりを捉えて読み取る活動を充実させる。

宇都宮市立白沢小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	60.9	67.3	67.4
	図形	58.9	64.5	64.7
	測定	71.6	74.7	74.9
	データの活用	58.1	54.4	56.4
観点	知識・技能	73.5	77.6	77.8
	思考・判断・表現	38.4	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

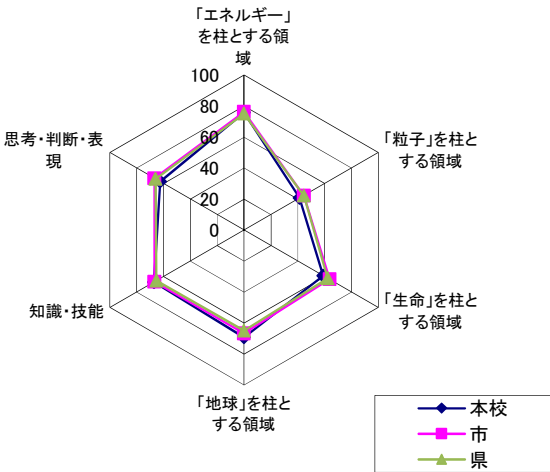
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	領域の平均正答率は60.9%で、市平均と比べて6.4ポイント下回った。 ○小数のしくみや表し方についての問題では、市平均より0.6ポイント高い。 ○整数－小数第一位の計算をする問題では、市平均より2.6ポイント高い。 ●分数の表す正しい大きさを答える問題では、市平均より13.4ポイント下回った。	・計算ドリルやAIドリル、プリント等を活用し、計算問題に繰り返し取り組ませることで、基礎基本の定着を図る。 ・具体物を用いたり、図を描いて考えたりすることで、分数が表す大きさをイメージできるようにする。
図形	領域の平均正答率は58.9%で、市平均と比べて5.6ポイント下回った。 ○円の半径と直径についての問題では、市平均より5.2ポイント高い。 ●球の性質を利用し、長さを求める問題では、市平均より14.7ポイント下回った。	・円の直径や半径を求める問題だけでなく、求めた長さを使って、さらに、別の物の長さについて考える問題に取り組ませることで、知識を活用して考えられるようにする。
測定	領域の平均正答率は71.6%で、市平均と比べて3.1ポイント下回った。 ○地図から道のりを読み取って、その和を求める問題では、市平均より7.5ポイント高い。 ●はかりの目盛りを読み取り、重さを答える問題では、市平均より9.6ポイント下回った。	・数直線など、目盛りを読み取って活用するツールを日常的に使用させることで、一目盛りが表す大きさに着目する見方を身に付けられるようにする。
データの活用	領域の平均正答率は58.1%で、市平均と比べて3.7ポイント上回った。 ○1目盛りの数が異なる2つの棒グラフを読み取る問題では、市平均より7.3ポイント高い。	・社会や理科等の教科でも、グラフや表などを丁寧に読み取れるように指導することで、様々な表やグラフを正しく読み取ることができるようにする。

宇都宮市立白沢小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	75.9	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	41.4	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	59.0	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	69.2	66.6	64.9
観点	知識・技能	67.1	66.8	65.4
	思考・判断・表現	62.6	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	領域の平均正答率は75.9%で、市平均とほぼ同じである。 ○鉄やアルミニウム、銅が金属であることを理解しているかどうかを見る設問の正答率は70.3%で、市平均より6.2ポイント上回っている。 ●実験の結果から磁石に引き付けられる空き缶の材質を推測できるかどうかを見る設問の正答率は78.4%で、市平均より11.1ポイント下回っている。	・動画やプリント学習だけではなく、実験を通して理解を深めていく。 ・朝の学習等の時間に、磁石遊びなど体験的な学習を通して理解を深めていく。遊びを通して、磁石の性質についての興味を高めていく。
「粒子」を柱とする領域	領域の平均正答率は41.4%で、市平均より3.1ポイント下回っている。 ○物の重さから同じ種類の木でできている積み木を推測できるかどうかを見る設問の正答率が78.4%で市とほぼ同じである。 ●形を変えても重さは変わらないことを理解しているかどうかを見る設問の正答率は37.8%で、市平均より7ポイント下回っている。	・授業で実験をする際には、予想と理由を文章で必ず表すように指導していく。 ・授業だけでなくプリントやAIDリルなどを生かし、多くの問題に触れることで知識が身につくよう継続して指導していく。
「生命」を柱とする領域	領域の平均正答率は59.0%で、市平均より4.6ポイント下回っている。 ○植物の体のつくりの共通点を指摘できるかどうかを見る設問の正答率は89.2%で、市平均より4.8ポイント上回っている。 ●トンボの育ち方とモンシロチョウやカブトムシの育ち方の違いを記述できるかどうかを見る設問の正答率は59.5%で、市平均より19.6ポイント下回っている。	・実験結果や植物や動物の成長過程の相違点・類似点について、文章で説明する学習を積み重ねていく。 ・教科の指導においては、自分の考えを具体的に表す学習を積み重ねていく。
「地球」を柱とする領域	領域の平均正答率は69.2%で、市平均より2.6ポイント上回っている。 ○太陽の位置の変化を方位で理解しているかどうかを見る設問の正答率は62.2%で、市平均より16.5ポイント上回っている。 ●実験の記録から影の動く様子を推測できるかどうかを見る設問の正答率は43.2%で、市平均より10.7ポイント下回っている。	・実験や動画を通して、影の動きを理解できるよう指導していく。 ・授業だけでなく、プリントやAIDリルなどを生かし、多くの問題に触れることで知識が身につくよう継続して指導していく。

宇都宮市立白沢小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」や「友達と話し合うとき、友達の意見を最後まで聞くことができる」という設問はいずれも市平均を大きく上回っており、「学び合い」を意識した授業の成果が表れている。今後も互いに意見を交わし合い、高め合える授業を目指していきたい。

○「毎日朝食を食べている」「毎日、同じくらいの時こくにねている」「早ね、早起きを心がけている」などの生活習慣に関する設問は、市平均を上回っており、規則正しい生活を送っている児童が多いことがわかる。これからも、健康的な生活習慣を送ることができるよう働きかけを続けていきたい。

○「自分は勉強がよくできる方だと思う」や「自分には、よいところがあると思う」という設問では市平均を大きく上回っており、自己肯定感が高い児童が多いことがわかる。今後も何事にも自信を持って取り組めるよう細やかな支援に努めていきたい。

○「学校での役わりや仕事にせきにんをもって取り組んでいる」と回答した児童の割合は70%以上を占め、市平均を上回っている。これからも自分の役わりや責任を果たす大切さを伝えながら、充実した学校生活を送れるように支援していきたい。

●「学校の宿題は自分のためになっている」という設問は市平均を15%以上上回っており、宿題に真面目に取り組む児童が多いことがわかるが、一方で「家で、学校の授業の復習をしている」や「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」という設問では、市平均を大きく下回っており、宿題以外の学習に取り組んでいる児童は少ないことがうかがえる。これから高学年になるにつれて自主的に学習する力を高められるように宿題の出し方などにも工夫していきたい。

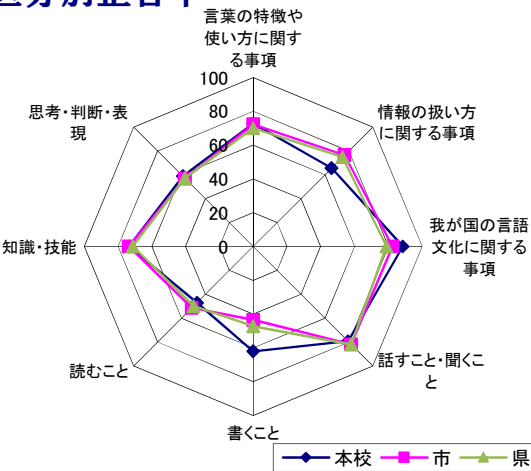
●「学校のきまりを守っている」や「家でのきまりや約束を守っている」と回答した児童の割合は、市平均を大きく下回っている。きまりは何のためにあるのかを機会ごとに話し、きまりを守る大切さを身に付けさせたい。

●「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」「授業であつかうノートには、学習の目標とまとめを書いている」と回答した児童の割合は、市平均を大きく下回っている。各教科で授業のまとめをする際には、教師主導で授業のまとめをするのではなく、児童に文章でまとめさせてから、共有を図るようにしていきたい。

宇都宮市立白沢小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	72.7	72.3	70.0
	情報の扱い方にに関する事項	65.7	76.4	74.9
	我が国の言語文化にに関する事項	88.6	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	79.3	81.9	82.0
	書くこと	62.1	43.5	47.2
	読むこと	47.1	51.4	49.8
観点	知識・技能	73.5	73.6	71.3
	思考・判断・表現	58.9	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

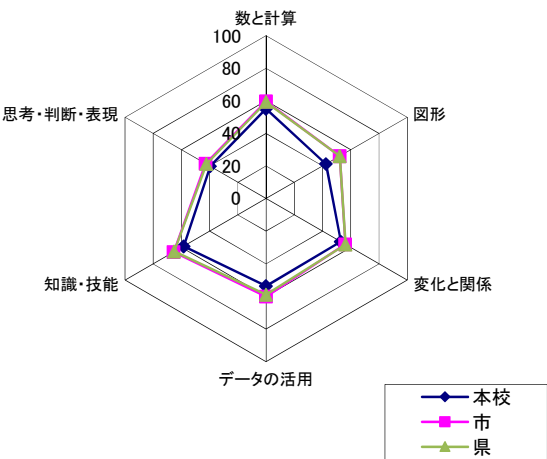
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	領域の平均正答率は72.7%で、市の平均とほぼ同じである。 ○漢字を正しく読む力が身についている。 ●漢字を正しく書く力は、市に比べて5ポイント以上低い。 ●文法の、修飾語を問われる問題の正答率が低い。	・音読に毎日取り組ませることで、正しい文章や言葉の使い方の定着を図る。 ・漢字テストや漢字練習を計画的に行い、習熟を図る。 ・日記指導や作文指導を継続し、書く力の向上を図るとともに、既習事項の漢字を使うように指導していく。
情報の扱い方にに関する事項	領域の平均正答率は65.7%で、市の平均より10.7ポイント低い。 ●漢字辞典の使い方についての設問では、市の平均より、10.7ポイント低い。	・漢字辞典や国語辞典を日常的に使用させ、漢字の正しい使い方を習得させたり、語彙力を高めさせるようにする。
我が国の言語文化にに関する事項	領域の平均正答率は88.6%で、市の平均より6.2ポイント高い。 ○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることができるかの設問では、9割弱の正答率で市の平均を上回っている。	・ことわざや慣用句に関心を持たせるため、1分間スピーチなどでことわざや慣用句について紹介させたり、ことわざクイズなどを実施して日頃からことわざ等に親しめるような環境づくりに努める。
話すこと・聞くこと	領域の平均正答率は、79.3%で、市の平均より2.6ポイント低い。 ○相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら話すことができるかどうかを問われる設問での正答率は、9割を超えている。 ●話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることができるかどうかを問われる設問では、市の平均より11.3ポイント低い。	・国語の授業において、要約や要旨の意味をしっかりと理解させ、要旨を捉える活動を多く取り入れるようにする。 ・活動内容のねらいに応じて、グループやペアでの話し合い活動を実施し、考えを伝えたり友達の意見と比べたりする練習を日常的に行っていく。
書くこと	領域の平均正答率は、62.1%で、市の平均より18.6ポイント高い。 ○段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことができる。	・書く時の条件を明確に示し、各教科において、自分の思いや考え、登場人物の心情等を書く活動を多くして、書くことへ対しての抵抗を少なくする。
読むこと	領域の平均正答率は、47.1%で、市の平均より4.3ポイント低い。 ○叙述を基に文章の内容を捉えることが、市の平均より18.3ポイント高い。 ●文章を読んで、登場人物の感じたことや考えたことを正しく理解できていない。	・国語の読む活動では、叙述に沿って登場人物の気持ちを考えさせたり、キーワードとなる言葉を見つけさせたりする。また、根拠となる叙述を明らかにする学習を行う。 ・物語のあらすじを書く活動や、要旨をまとめる活動を意図的に増やす。 ・日常的に読書に親しめるような環境づくりに努め、本好きな児童を育てる。

宇都宮市立白沢小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	55.1	59.7	59.2
	図形	42.4	52.1	52.1
	変化と関係	52.9	56.1	56.3
	データの活用	53.6	60.1	58.9
観点	知識・技能	58.4	65.5	65.1
	思考・判断・表現	39.7	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

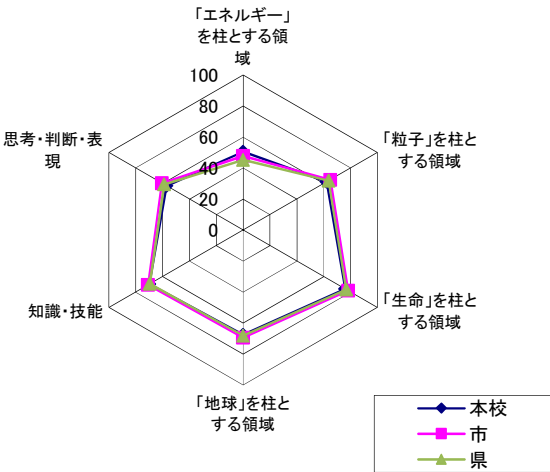
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は55.1%で市の平均を4.6ポイント下回っている。 ○大きい数の読みの問題では市の平均を1.7ポイント上回った。 ○式の意味を正しくとらえ、計算法則を見出す問題では市の平均を上回った。 ●基本的な計算問題に課題が見られた。わり算の問題では市の平均を10ポイント以上下回った。 ●仮分数で表す問題では市の平均を15.2ポイント下回った。	・基本的な計算についての習熟を図るために計算練習を繰り返し行えるよう継続的に指導する。 ・分数の理解については今後も学習を通して数の大きさなど意識させながら指導を行っていく。
図形	平均正答率は42.4%で市の平均を9.7ポイント下回っている。 ●三角定規の角度を活用する問題では市の平均を17.6ポイント下回っている。	・角度については具体物を使って視覚的に理解できるように指導する。 ・作図については基本的な技能の定着を図れるよう繰り返し指導する。
変化と関係	平均正答率は52.9%で市の平均を3.2ポイント下回っている。 ○伴って変わる2つの数量の関係を読み取ることができるかどうかをみる問題では市の平均を9.9ポイント上回った。 ●数量関係について、正しく表された図を選んだり、伴って変わる2つの数量の関係について、表をたて	・数量やその関係を表したり調べたりする学習ではテープ図や数直線等の具体物を取り入れ問題場面を視覚化した指導を行っていく。
データの活用	平均正答率は53.6%で市の平均を6.5ポイント下回っている。 ○条件にあてはまる表の部分を選ぶ問題では市の平均を7.9ポイント上回った。 ●二次元表の読み方を理解しているかどうかをみる問題では市の平均を16.3ポイント下回っている。	・グラフや表、設問の意味を正しく読み取ることができるよう、算数の授業だけでなく他教科でも意識的に指導していく。

宇都宮市立白沢小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	50.5	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	62.1	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	76.0	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	67.6	69.5	68.1
観点	知識・技能	69.9	70.8	69.5
	思考・判断・表現	57.1	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	領域の平均正答率は50.5%で、市平均より2.7ポイント上回っている。 ○「検流計の針のふれ方からわかることを問う設問」においては、市の平均正答率を7.3ポイント上回った。 ●電流が大きくなる回路を選ぶ設問においては、市の平均を1.3ポイント下回った。	・基礎事項の定着を図るために、既習の学習内容をよく復習し、確認してから授業を進める。また、類似問題を多く解く時間を確保していく。系統的な学習をさらに充実させていく。 ・実験や体験する活動を多く設定し、興味関心を高めさせる。
「粒子」を柱とする領域	領域の平均正答率は62.1%で、市平均より2.8ポイント下回っている。 ○水を冷やす実験で、より水を冷やすために氷の入ったビーカーに入れたものを選ぶ設問においては、市の平均正答率を12.9ポイント上回った。 ●予想が正しかった場合に得られる実験結果を構想できるか問われる設問においては、市の平均を15.5ポイント下回った。 ●実験の結果と身の回りの現象を結びつけて考え、記述する設問においては、市の平均を19.5ポイント下回った。	・実験を行う際には、予想・実験・結果および考察という過程で学習することを習慣化していく。また、根拠を示し結果や考察が述べられるよう指導していく。
「生命」を柱とする領域	領域の平均正答率は76.0%で、市平均より2.2ポイント下回っている。 ○関節について理解しているかどうかをみる設問においては、市の平均正答率を7.3ポイント上回った。 ●腕を曲げたときの筋肉のようすを選ぶ設問においては、市の平均を11.7ポイント下回った。	・年間を通じて「観察ノート」をつけていたり、総合的な学習や他教科との関連も生かしたりして、季節の変化の様子に触れる機会を作るなど、自然に目を向ける機会を増やすなどの工夫をする。 ・プリントやAIドリルを活用し、問題に触れる機会を多くし知識の定着を図る。
「地球」を柱とする領域	領域の平均正答率は67.6%で、市平均より1.9ポイント下回っている。 ○天気の流れ方を理解しているかどうかをみる設問においては、市の平均正答率を4.7ポイント上回った。 ●数時間後の星のならび方と見える位置について問われる設問においては、市の平均を11.7ポイント下回った。	・自然に関連した学習では、実際に観察したり映像を見たりするなど、実感を伴った理解ができるよう授業の工夫をする。 ・観察を行う際には、結果や考察を自分の言葉で書かせることを習慣化させ、繰り返すことで表現力を高めていく。

宇都宮市立白沢小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強している」と肯定的な回答した児童の割合は82.9%で、市の平均と比べて12ポイント以上高い。また、「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」と肯定的な回答した児童の割合も85.7%と市の平均と比べて25ポイント以上高く、児童が家での学習に対して自主学習などに、意欲的に取り組む様子が見られる。

今後も、学校と家庭が連携して児童の頑張りを認めていく指導を推進していきたい。

○授業中でのグループなどでの話し合いに自分から進んで参加したり、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりするのができていると回答する児童が、市の平均を上回っている。また、友達の前で自分の意見を発表することが得意と回答した児童の割合も高く、話し合う活動や発表する活動に対して意欲的に取り組み、考えを深めていこうとする児童が多い。

今後も、授業での話し合い活動や発表の場面を多く設定し、児童の意欲を継続できるようにしていきたい。

○「自分はクラスの人の役に立っていると思う」と肯定的な回答した児童の割合は74.3%で、市の平均と比べて10ポイント以上高く、係や当番活動、委員会活動など自分の仕事に責任をもって取り組んでいる様子が見られる。

●「家で学校の授業の予習をしている。」「家で学校の授業の復習をしている。」に肯定的な回答をした割合は両方とも市の平均よりも5ポイント以上低い。家庭学習の取り組み方について確認し、児童が取り組める環境づくりをしていきたい。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の肯定的割合は、市の平均よりも14.8ポイント低い。しかし、ふだんの生活の中でメディアを利用しているゲームや動画視聴を2～3時間以上しているという児童が市の平均よりも高い。インターネットや携帯機器を調べ学習等にも生かせるようにするとともに、家庭でのインターネット機器の利用について確認をしていきたい。

宇都宮市立白沢小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学び合い活動の充実・言語活動の質的向上	全ての学年・クラスで、発達段階や場面に合わせて、ペア・トリプル・グループの話し合い活動を多く取り入れ、表現の仕方を指導している。	5年生の「書くこと」の領域では、全ての設問で正答率が市平均より上回っている。特に段落の役割を理解して文章を書いたり、内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書いたりする設問で市平均を上回った。しかし、4年生の「書くこと」の領域では、全ての設問で正答率が市平均より下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語科において、4・5年生ともに「読むこと」の領域で、市平均を下回っている。	・語彙力を強化するための読書活動の充実 ・音読の時間の確保 ・朝の学習の時間などで読み取りの学習	「奨励図書」を示すなど、読書内容の充実と読書量の増加を促し、語彙力の強化を図れるようにする。また、国語の時間は、毎時間音読をする時間を設け、正しく音読する力を高めるようにする。朝の読書の時間に読み聞かせをし、話の内容を要約させるなど要約力をつけるための取組をする。